

『朝鑑賞』の取り組みと成果報告Ⅱ

The activities and the results about morning appreciation of Pictures II

三澤 一実
武蔵野美術大学

Kazumi MISAWA
Musashino Art University

日本美術教育研究論集／日本美術教育連合

第58号 別刷

Japanese Journal of Art Education No.58_2025

International Society for Education through Art in Japan

『朝鑑賞』の取り組みと成果報告Ⅱ

The activities and the results about morning appreciation of Pictures II

武蔵野美術大学 三澤 一実

Kazumi MISAWA / Musashino Art University

1. はじめに

本論文は拙論『朝鑑賞の取り組みと成果報告』¹⁾の続編である。先の論文では、2016（H.28）年5月から所沢市立三ヶ島中学校で朝鑑賞の取り組みが始まった経緯を述べ、取り組みにより生徒の国語の書く力が伸びた成果を報告している。また朝鑑賞に対する生徒の意識を生徒アンケートより分析し、朝鑑賞に対して肯定的な意見が増えている点を述べた。さらに朝鑑賞に対する教師の意識を聞き取り、教師自身が日頃の生徒との接し方についてふり返る契機や授業改善につながる機会になった点、また教師同士のコミュニケーションが増えたことなどを述べた。そして、複数校での継続調査を行ない、本取り組みが生徒の学力や教師の指導力の向上に貢献できるかを実証することを今後の課題とした。

本論文では2017（H.29）年から2024（R.6）年までの所沢市立三ヶ島中学校や坂戸市立桜中学校、また他の学校での実践の広がりなど、6年間の取り組みで明らかになった点を述べ、朝鑑賞の活動が今日的教育課題²⁾に対して優れた実践であることを報告する。

2. 各学校の実践から（2017～2022）

（1）所沢市立三ヶ島中学校の実践

所沢市立三ヶ島中学校では、朝鑑賞開始時点から実施当日の金曜1時限に校内研修部会を開き、各学年の研修担当者と朝鑑賞や朝鑑賞を生かした教科運営について協議を深めていった。1年間の成果については毎年3学期に外部に向けて研究発表会を開催し、朝鑑賞（昼に実施）や授業を公開した。2017（H29）年度と2018（H30）年度の報告会では参加者の対話を取り入れ、椅子から座布団に変えて参加者同士が語り合う時間を設けた（図1）。発表会には市外や県外からの参加者も多数訪れ、青森県の中学校長からは「朝鑑賞は私が予想していた以上の成果が読み取れる内容でした。特に、子どもたちの『気づき』⇒『思考』⇒『表現・コミュニケーション』につい



図1 H29年度朝鑑賞発表会の様子。2018,2,2

ては三ヶ島中学校の先生方の疑心暗鬼より、子どもたちが能力育成や成長が先行していると感じました。』³⁾。都内中学校教諭からは「すべてにおいて『愛』が感じられる研究発表会でした。『多様性の受容、保障…』という言葉が、会場の三ヶ島中の先生がたのリアルで率直な言葉からズシンと心に響きました。』⁴⁾などの感想が寄せられた。

H.30年度朝鑑賞研究発表会は美術科教育学会のリサーチフォーラムと共催して2019年1月30日に行われた。その朝鑑賞のシンポジウムでは県内外から200名を越える参加者を集めた。

朝鑑賞実施後の生徒の学力変化については、入学時から朝鑑賞を続けてきた2019（H.30）年度の3年生が所沢市内の学力テストで市内平均まで上昇し、それまでの底辺レベルから脱し、また、進路決定も例年になく早く決定した。「進路決定の速さについてはメタ認知の向上が考えられる」と沼田校長⁵⁾は話す。メタ認知の向上については三ヶ島中学校の朝鑑賞を対象とした奥村の研究⁶⁾で確認されている。朝鑑賞を通して自他の違いに気づいたことが生徒自身のメタ認知を高めたのであろう。

さて、このように生徒の学力向上や主体的対話的で深い学びの実践として関心を持たれ始めた朝鑑賞であったが、2020年4月にそれまで牽引していた沼田校長の異動があり、同年の9月以降、全校での取

り組みが停滞し3学年のみの実施となっていた。沼田は異動に際し、校内研修部を校内研修部と朝鑑賞部に分けて朝鑑賞の活動を継続させようとしたのであるが、教職員の異動が、2019年度で3割、そして2020年度で4割と、2年続けて大幅に入れ替わる状況であり、2020年の4月には朝鑑賞を2年以上経験した教職員が少数派になってしまった。それに伴い、朝鑑賞の効果をまだ実感できていない教員から不満が出て、新たに着任した校長が朝鑑賞の継続に対して強いリーダーシップを取ることに繋がらなかった。

筆者は朝鑑賞が中止となった原因を探るため2021年2月から3月にかけて、校長ほか、各学年の教員6名にインタビューを行った。対象者は朝鑑賞に関して2年未満の経験者3名と3年以上の継続者3名である。2年未満の教員からはおおよそ5つの課題が出てきた。

- ① 朝鑑賞を行う意味の共通理解ができていない。初めて取り組む教師が多く活動に対する実感的理解ができていない。
- ② 成果がすぐ出ないし数値化できないので達成感が得られず、取り組みに対するもやもや感があり特別な活動(朝鑑賞)をしようと思えない。
- ③ ファシリテーションスキルの習熟度に差があり、異動してきた先生には実施する上で大きなギャップ(負担感)を感じた。
- ④ 基礎学力が無いので週1回の朝鑑賞の10分より必要な取り組みを優先したい。(数学とか国語のドリルなど)
- ⑤ 朝読書は指導を要しないが、朝鑑賞は教師がファシリテーションをしなくてはならず負担になる。

他にも感想として教師のファシリテーションに関して、「絵は最終的にどこにもって行ってよいか落とし所が分からない。教員は目標がありそこにつれていくことには慣れているが、朝鑑賞はそれが無いので難しい。」とか、「教員が納得できる到達点に持っていきたい気持ちが強く、予想できない発言があると、ドキッとする」などの、「教え込む」ことに注力してきた教師の姿が浮かび上がってきた。

一方、朝鑑賞を開始当時から継続してきた教師も①～⑤の課題を認めるものの、朝鑑賞の立ち上げから手探りで始めてきたので少し異なる感想を述べている。

- ⑥ 校長が学習指導要領に関連付け、朝鑑賞の必要性を繰り返して言っていたので、対話はこれから必要な力と認識できていた。
- ⑦ 始めた当初はみんなが手探りでどうしたらよいか分からなかったので安心感があった。最初の頃は上手く行かなかったので話し合いたくたしよがなかった。研修が楽しかった。
- ⑧ 途中からだと出来る人と出来ない人の差が出るので不安だと思う。経験差が能力差として捉えられてしまうプレッシャーがあったのでは(経験ギャップ)。
- ⑨ 教師が自身の変化を感じ、掴めないと続かないだろう。自分は生徒の発言を待てるようになった。生徒との会話ができるようになりコミュニケーションが取れるようになった。
- ⑩ 楽しいという感覚は、研修などを通してふり返りができ、2年目3年目には自身に力がついてきたと感じた。教師自身が振り返る機会の必要性の実感した。
- ⑪ 他の学年からは2年になったところで、何も発言しないし、させるのが辛い、発言しないから活動に意味が無いとの発言があったが、発達的にそのような時期だということも研修を通して理解することもできたので楽しかった。
- ⑫ 3年目ぐらいで朝鑑賞になれて、授業でも様々な展開ができるようになり、授業改善に繋がっていった。
- ⑬ 鑑賞と授業は同等じゃない。鑑賞は授業の土台作りになっている。
- ⑭ 朝鑑賞が途切れた原因については教員間で対話をするのを避けてきた。生徒から授業中に時を選ばず発言が出るようになり、それは授業の規律としてどうなの?と言う教師が出てきた。自由を受け止める度量が無いと型どおりの授業になってしまう。
- ⑮ 子どものたちも脱線(予想通りに進まないことに)に強くなった。柔軟さが生まれた。これは指示を出してその通り進める授業では生まれえない。決められた活動ではなく創造的な活動が生まれた。
- ⑯ 自分自身は話しを受け止める力。聞く力が付いた。以前は早く答えを求めようとしていた。
- ⑰ 聞く力、混沌とした過程を楽しめる。それは授業のみを行っているだけでは難しい。

⑱ 朝鑑賞が、学力向上のベースになっていた。

以上のように朝鑑賞の効果を認めている内容であり、他には「自分の人生に絵が入ってきた。それまでは絵に目もくれてこなかった」など、総じて教師自身が自らの成長を実感している回答であった。

インタビューを通して、現場では問題点を掘り下げ、共有し、問題解決や評価に結び付ける対話の習慣や、それに充てる時間の無さを感じた。

(2) 坂戸市立桜中学校

所沢市立三ヶ島中学校の約半年後、朝鑑賞を始めた中学校に坂戸市立桜中学校がある。桜中学校は以前より「旅するムサビ」⁷⁾という鑑賞活動を実施してきた。その中心人物が美術科の鈴木彩子教諭で、当時、教務主任をしていた。鈴木は三ヶ島中学校で朝鑑賞を始めた話を聞きつけ桜中での導入を計画した。朝鑑賞を始めた頃は、生徒に落ち着きがなく、問題行動も目立ち、学力も低かったという。

開始当初は一部の教員に強い反対があった。その一人であった増田翔太教諭は5年後に教務主任となり、それまでの朝鑑賞の積み重ねを改めて確認し、朝鑑賞の推進者へと変わっていった。当時朝鑑賞を強く反対した増田は次の様に振り返っている。「今はそのような時期では無いだろう。もともと部活で抑えていた学校なので、朝鑑賞のような文化的な活動はなじまないだろうと反対していた」と。さらに「5年前は子どもの心があまり良い状態では無かったので発言の内容も良くなかった。徐々に生徒も教師も朝鑑賞に慣れてきて少しずつ学校も落ち着いてきた。一番は慣れてきたというのが大きいのかな」とインタビュー⁸⁾に答えている。

桜中学校は坂戸市教育委員会が進める「学び合い」と絡めて朝鑑賞に取り組み、2018～2019年度に研究校として実践し2019年11月に校内研究の成果を発表した。報告書(図2、図3)では朝鑑賞を始めてから3年間の学力の伸びと共に、生徒の自己肯定感の向上について報告されている。

学力向上に関しては「2年生は国語、3年



図2

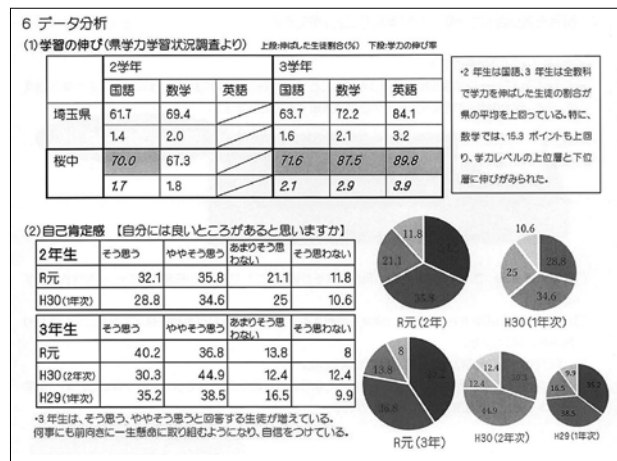


図3

生は全教科で学力を伸ばした割合が県の平均を上回っている。特に、数学では、15.3ポイントも上回り、学力レベルの上位層と下位層に伸びが認められた。」と書かれている。自己肯定感(自分には良いところがあると思いますか)に対して「3年生は、そう思う、ややそう思うと回答する生徒が増えている。何事にも一生懸命に取り組むようになり自信をつけている。」とある。

教師の声(朝鑑賞アンケートより)では、「ファシリテーターや見守り役をしてみて感じたこと、気づいたこと」を朝鑑賞開始当時と現在とで以下のように比較している。

- 「朝鑑賞を始めた頃」-----
- 発言しない生徒、絵を見ない生徒、参加できない生徒がいる。
 - どのようにして生徒の興味を引きつけるか→授業にも繋がるはず。
 - 感想とか書かせるのはだめか?言葉が出てこない…。
 - まったく意見が出てこないときは、静寂のままででもいいものなのか?10分もたない。
 - 生徒から思うことを引き出すのが難しい。
 - ふざけやおちゃらけ発言がある。
- 「現在」-----
- 意見がたくさん出て、つながった瞬間は楽しい。
 - ファシリテーターが楽しい。
 - 教育相談的な手法がそのまま使える。
 - 自分を高めるための練習になっていると感じる。
 - 慣れていると授業力にもつながる。
 - 発問が分かりにくいと、発言はやはり少なくなる。絵によっても、子どもの表情が全然違う。
 - 発言をしない生徒も自分なるの考を持ち、絵を鑑賞している。
- 「朝鑑賞をして変わったと思うところ」-----
- いかに生徒の声を聞き取ろうかと気をつけて過ごすようになった。

- 授業中の発言が多くなってきた様に思う。
- よいコミュニケーションが常日頃から取れる様になったのではないかと思う。
- いろいろな意見が出てくるようになった。
- 道徳も学年の先生が交代して担当することから、担任と生徒との繋がりだけでなく、生徒と学年職員、桜中職員とのつながりが身近なものになって、桜中の一体感が生まれているような気がする。
- 教員も職員もなじんできた。
- 生徒が自然に意見や質問、思ったことを言葉にするようになった。

後に桜中学校の田中正吾教頭はインタビュー⁹⁾で朝鑑賞による成果を以下のように話している。「先日教頭会で前桜中学校の教頭が『それは画期的なことが起きている。昔からすると考えられないことだ』と話しておりました。」「以前反対していた先生も今は推進側に回っている」と、国と県の学力調査の得点が向上したことで、教員の朝鑑賞への理解が進んでいることを語った。

(3) 所沢向陽中学校

2020 (R.2) 年、所沢市立三ヶ島中学校から所沢市立向陽中学校へ異動した沼田はGIGAスクール構想の下、所沢市立向陽中学校でデジタルデータを使った朝鑑賞を始めた(図4)。筆者は当年8月の校内研修に呼ばれ朝鑑賞のレクチャーを行った。向陽中学校では三ヶ島中学校で朝鑑賞を経験している坪井教頭がおり、すでに校内研修で朝鑑賞に取り組む準備はできていた。鑑賞作品は武蔵野美術大学の学生作品をデジタルデータにして提供した。生徒は、教室前面のモニターと、手元のタブレットを使って作品を見る仕組みである。作品に関しては実作品に比べ物質的な情報量は少ないが、これまで懸案であった作品と生徒の距離から生じる見にくさは無

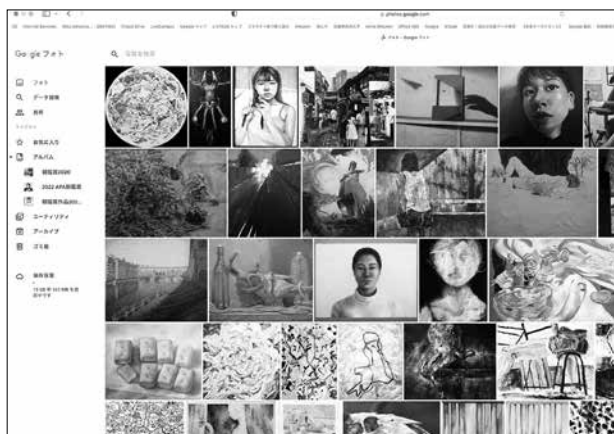


図4 Google フォトに掲載した学生作品



図5 朝鑑賞の校内研修 向陽中学校 2021.8.20

く、まして手元で拡大してみることができるメリットもある。

所沢向陽中学校では現在も朝鑑賞を続けているが、取り立てて生徒及び教師に変化が生まれていない。その理由について沼田は、この学校は所沢市の中でも学力が上位に位置し、生徒の能力も高く、教師の考えを察知して行動できる生徒たちであると言う。よって教師が特段努力せずとも問題なく過ごせる学校である。筆者もかつて勤務していた学校であり、その意見には同感できる。

さらに沼田は「生徒が教師のファシリテーション能力を見切ってしまうている。」¹⁰⁾と述べ、思うように教師の力量が伸びていないことを話している。

ほかにも三ヶ島中学校との相違点はある。それは鑑賞作品をデジタルで提供している点である。デジタルの画像と実物作品では作品を見る環境の違いもある。生徒は鑑賞時に席で椅子に座ったまま、手元のタブレットを見るだけであり、実作品の鑑賞に対して身体を動かしたりして作品を見ようとする動きが非常に少ない。そして何より、作品から提供される情報量の違いは圧倒的に実物作品の方が多い。よってデジタル画像の場合は、教師の「問い」の質が直接子どもの興味関心につながり、実作品の鑑賞以上に問われてくるのではないだろうか。この鑑賞に関する条件の比較については今後の研究となる。

これまで筆者は幾度となく向陽中学校での視察を繰り返したが、沼田の発言「教師のファシリテーション能力の有無」については現場感覚からの洞察という点で十分理解できる。この教師のファシリテーション能力とは生徒の思考を活性化させ主体的に鑑賞に向かわせる発話であるが、教師のファシリテーション能力の向上には生徒の主体的な鑑賞態度が握っていると見えよう。教師主導の鑑賞活動では、なかなかファシリテーション能力は育たないといえ

よう。

(4) 川口市立鳩ヶ谷小学校

鳩ヶ谷小学校では2021年11月に筆者が朝鑑賞の校内研修を行った上で、学校研究のテーマ「問い」と朝鑑賞を連関させ、教師の発問を意識した朝鑑賞を始めた。研修では朝鑑賞の意義とこれまでの実践で明らかになったことなどを話し、実際に子どもたちと年齢が近く感覚的に親和性が高い学生作品のデジタルデータを使い筆者が実演をし、さらに2名の先生と朝鑑賞の演習を行った。(図6)

中学校と小学校を比較すると小学校教諭の方がファシリテーションの能力が高い。それは、児童の言語能力がまだ十分では無く、対話を通してものごとを理解させたり、話を聞いたりする場面が中学校より多いからではないかと考えられる。

さて、鳩ヶ谷小学校では、成果について岩田直代校長は、約10ヶ月後に実施された国と県の学力調査の点数に大幅な伸びが見られたと話し、「埼玉県独自の調査は一人一人の伸び率を見る調査であり、学年によって左右されないのが朝鑑賞の成果の一つと言える。」「朝鑑賞でも問いが大事な役割を果たすので、朝鑑賞をすることによって、問いをさらに意識するようになった。」¹¹⁾と述べている。さらに、同校5年の担任は、「社会科の授業で図表の見方が深まり隅々まで見るようになり、また発言が鋭くなった」と朝鑑賞の成果を述べている。

3. 4校の取り組みから見えてくるもの

(1) 学力の向上に関すること

調査対象となった4校では、当初「朝鑑賞をすると学力が向上する」という仮説のもと朝鑑賞の実践を重ねてきた。その結果、4校中3校で顕著な成果が見られたが、1校では変化が無かった。その原因は、教師のファシリテーション能力に原因があるのでは無いかと推測する。筆者の観察や校長などの証言から、向上した3校においては多くの教師に作品鑑賞時のファシリテーション能力の向上が見られた。すなわち、朝鑑賞の実践で、主体的で対話的な授業が自然に行われる様になり、生徒が自ら考える時間が増えたのではないかと考えられる。その根拠として子どもたちの発言の増加が確認されている。また、朝鑑賞を通して資料などを注意深く観察する能力が付き、子どもたちの気づきが増えたとも言え



図6 朝鑑賞の校内研修 鳩ヶ谷小学校 2021.11.17

る。さらには、教師の発する問いが、子どもたちの探究意欲をかき立て授業の質的変換が起きたと考えられる。学力向上には教師の子どもたちとの関わり方が大きく影響すると考えられるのである。

(2) 教員の資質向上に関すること

朝鑑賞の取り組みは教師自身の能力も伸ばしていく。学力向上の根拠とも連関するが、朝鑑賞の取り組みは日頃の指導を教師自身に自覚させ、そのふり返りによって授業改善につながっていくなど、教師が成長していく姿が伺える。特に、教師が子供の発言を聞こうとする姿勢が身につく点が上げられる。桜中学校の教員アンケートに「教育相談的な手法がそのまま使える」とあるように、朝鑑賞のファシリテーションでは教師が生徒の発言を受容し共感することがおもな活動であり、教師自身の生徒理解が深まると共に、日常的に受容(話を聞く)と共感(なるほど)の姿勢が身についていく。結果、教師に対話する力がつき“主体的で対話的な深い学び”を実現させる指導力につながっていく。

(3) 朝鑑賞の継続に関すること

朝鑑賞の継続に関しては管理職のリーダーシップが重要である。朝鑑賞の活動が学力向上のみならず学校運営全体に関わる取り組みであることを理解し全職員の共通理解を得ていくことが肝要である。そして朝鑑賞の成果が実感できる子どもと教師の活動評価を行い、活動継続へのモチベーションとして還元していく必要がある。

もう一つの問題は教師の異動に伴う朝鑑賞の経験格差である。これに関しては年度始めに校内研修で朝鑑賞の目的やその方法などについての共通理解が

必要である。教師が朝鑑賞を通してファシリテーション能力を獲得していくまでの時間は、今までの観察からおおよそ半年から1年（小学校）、1年半～2年（中学校）程度が必要だと思われる。その間は継続的な研修が必要である。この小中の修得時間の差については、子どもの発達における言語獲得状況に応じた日常的な教え方の違い、コミュニケーション取り方などの違いからくる日頃の対話の慣れによるものと考えられる。

（4）子どもの変容から

朝鑑賞の調査では定期的に生徒アンケートも採っている。内容は先の拙論¹²⁾で掲載した内容と重複する内容のものもあるが、同一校でのアンケートではなく時期も異なるので特徴的なものを掲載する¹³⁾

- 相手の意見を尊重することができた。友達の大切さを知った。（1年）
- 僕は、朝鑑賞であり話したことの無い人と朝鑑賞を通して話すきっかけに繋がりました。そして僕は朝鑑賞で友達も増えたと思います。（3年）
- 一つの絵に対して全く違う意見が聞けるのがとても楽しかった。自分の意見をしっかり伝えることもできたし、相手の意見を聞いて自分の意見を変化させることができたのでよかった。また、朝鑑賞をすることで自分の意見をしっかり持てる様になったとおもう。

アンケートではこれまでと同様に「いろんな意見があることが面白かった。」とか「一人一人考が皆違うことが分かった」という、他者の存在に気づき、自分の考えを自覚する子どもが多い。すなわちメタ認知の向上にも働いている¹⁴⁾。このことは沼田が「朝鑑賞を通して自分自身を認識し、メタ認知が高まった結果、三年生が自分の進路に対する決定が今までに無く早く、その進路先も多岐に及んだ」¹⁵⁾と話している点からも言及できる。他にも不登校気味の生徒が朝鑑賞当日だけ登校するとか、普段発言の無い子どもが発言し自信をつけていくなど、生徒指導的な側面で朝鑑賞の効果が語られる場面が増えてきた。

4. 朝鑑賞の広がり

（1）8年間の普及活動

2024年現在、朝鑑賞が全国各地で行われる様になってきた。この普及に関しては沼田、筆者、そして青木¹⁶⁾が大きく関わっている。沼田は、教育実践で複数の受賞¹⁷⁾、雑誌『教職研修』への投稿など

を通してこれまでの実践を紹介している。青木は前任地の新潟県の小学校及び、現任地の滋賀県を中心に、校長や教育委員会に対して熱心に働きかけ朝鑑賞の普及に努めている。筆者は校内研修などの関わりを通して7都県の学校や教育委員会での講演等で普及に努めている。その中で筆者が関わっている複数の事例を報告する。

（2）茨城県教育センター

筆者は2021年度より茨城県教育センターの「未来を創るSTEAM教育研修講座」の講師として2023年まで3回講座を担当した。茨城県ではSTEAM教育に力を注いでおり、同センターの星野優子指導主事より研修を依頼された。星野は中学校美術科教諭であったことからSTEAMのAをリベラルアーツではなくアートとして捉え、その拡散的思考に着目し、芸術教育と理数系教育との合科教育として推進していた。朝鑑賞はアート思考が持つ拡散的な思考と、批評活動¹⁸⁾に効果があると考えSTEAM教育の基盤として価値付けていた。



図7 STEAM教育研修講座での鑑賞 2024.1.23

この研修をきっかけに茨城県の小中学校で朝鑑賞が広がっていった。筆者は各学校に教育センターを通して、朝鑑賞の実施に関する動画資料¹⁹⁾及びデジタル作品の画像提供を行った。昨年度の研修では、朝鑑賞を生かした成果報告などもあり、STEAM教育における多様な見方や考え方を生み出すベースとして利用されている。

（3）鳥取県立博物館

鳥取県では県立博物館の佐藤真菜学芸員が2015年より「旅するムサビ」を鳥取に招くなど学校現場と対話鑑賞の取り組みをしていた。佐藤は2017年度の

所沢市立三ヶ島中学校の研究発表²⁰⁾にも参加し朝鑑賞に関心をもっていた。鳥取では佐藤のほか鳥取県議会議員の森雅幹が朝鑑賞に関心を持ったことから朝鑑賞の取り組みが博物館を核に広がっていく。森はかねてから学校教育に関心を持ち、子どもたちが自分の言葉で話し、考え、安心して過ごせる学校に変えていきたいと考えていた。



図8 朝鑑賞シンポジウムチラシ

筆者は2022年11月17日の鳥取県立博物館での研修の際に森と会い、二人で鳥取県教育委員会の足羽教育長を訪問し朝鑑賞の説明をしている。その後、森は12月16日の定例県議会で朝鑑賞の導入について足羽教育長と議論を行っている²¹⁾。森の朝鑑賞の導入問題に対しての質問に教育長は「学校現場でどう実施していくかについては一つ課題があるにせよ、子どもたちの自由な発言と感じ方を広めていくという意味では非常に大きな意義を感じていると受け止めている」という答弁をしている。

2024年2月11日には鳥取県立博物館で朝鑑賞のシンポジウムが開かれた。鳥取県内の教員を中心にオンライン参加も含めて全国各地から140名の参加があった。また、鳥取県教育委員会は2022年に坂戸市立桜中学校、2023年には所沢安松中学校へ朝鑑賞の視察に訪れている。

(4) 長野県東御市文化スポーツ振興課

長野県東御市では、2023年度から市の文化スポーツ振興課がリーダーシップをとり教育委員会と共に市内全小中学校7校で朝鑑賞を実施している。市では不登校対策として、そして「30年後の人づくり・地域づくり」を見据えて、対話ができる人材育成の具現化に朝鑑賞を位置づけた。長野県では知事が芸術立県を目指し、鑑賞の取り組みを長野県文化振興事業団(信州アーツカウンシル)が進めているが、東御市はその具体的先例として注目されている。

2023年、2024年と4月に東御市教育研究会があり、そこで筆者は基調講演と朝鑑賞の演習を行った。2023年には市内全校を回り校内研修で朝鑑賞の演習

を実施した。年度末には東御市で朝鑑賞の実施状況をまとめた16頁のリーフレットを作成し、市内の全保護者に配付した。このような活動が展開できたのは市長部局の文化スポーツ振興課が牽引していることと、朝鑑賞担当の地域おこし協力隊を募集し職員として充てていることが大きい。一方、現場での実施状況に関しては、一つの中学校で思うように進んでいない。その要因は大規模校であることと、これまでの実施校と同様に、朝鑑賞に対する教師の共通理解がまだ不足しており、新しい取り組みに対する抵抗感を持つ教員が何名かおり管理職も苦慮している点が上げられる。



図9 朝鑑賞リーフレット (文化スポーツ振興課で制作)

5. 朝鑑賞の教育的な意義

(1) 安心安全な学級・学校づくり

2024年5月18日、武蔵野美術大学で朝鑑賞の報告会を行った。そこでは茨城、鳥取、埼玉の6校から実践報告がされ、そのうち茨城と埼玉の小学校から緘黙児が発言したとの報告²²⁾があった。朝鑑賞を継続していると、普段発言をしない子どもが発言し教師を驚かせることが多い。例えば、長野県東御市立和(かのう)小学校の朝鑑賞で起きたエピソードが「活発な対話女兒が初めて口を開いた」という見出しで新聞記事²³⁾になっている。記者は取材日にその光景を目にして記事にした。和小学校は東御市の朝鑑賞実践の中心校である。

普段授業に参加できずにいる子どもが朝鑑賞で活躍すること以外にもいじめの改善につながる事例もある。東京都羽村市立松林小学校では小学校6年児童が学級でのトラブルが一切なくなったと校長が話した²⁴⁾。朝鑑賞を通して対象児童の発言がクラスで一目置かれるようになり、その児童も自信をつけた。5年次まではトラブルが絶えなかったそう

だ。子どもたちを取り囲む学校での見えない同調圧力に対して、自分の考えを発言できる朝鑑賞の機会が「みんな同じ物を見てもみな違う感じ方をしている」という、言葉は理解できるが実感として理解できていない個の存在に気づき、他者理解へと進んでいく。他者の存在の大切さに気づく事でいじめ対策にもなっていくと考えられる。

朝鑑賞の日だけ登校するという中学生は沼田の報告にもある。多様な感じ方考え方が許容される朝鑑賞の時間は、子どもたちにとってその場に自分の身を置いて安心できる時間なのであろう。

生徒のアンケートに以下のような回答がある。

○「今までにない取組だったのではじめはなぜこのような活動をしているのかわからなくて、正直なところなんの意味があるのだろうかなんて思っていたりもしていたのですが何度も朝鑑賞をやっていくうちに絵から見える景色が人によって異なっていることが多くて「ああその考えがあったか」と驚かされたり感情が変わることがあり、他者の意見からその絵の魅力や視点が変わったりと自分の考え持つ大切さと他者の意見を尊重し、理解する大切さなどが個人的には以前の私よりも身についたかなと思いました。」²⁵⁾

この回答からは、朝鑑賞が個人の自立と、他者理解、多様性の尊重、対話の大切さなど数多くの学びにつながっていることが推測できる。

(2) 生徒と教師のウェルビーイング

当初、朝鑑賞の趣旨は学力向上が目的であった。その後、教師のファシリテーション能力の向上が中心となっていった。更に今日では安心安全な学校づくりが中心になり、朝鑑賞で得られる効果や、趣旨説明の語り口を変えている。勿論、学力向上や教師のファシリテーション能力の向上が取り組みの趣旨から消えることはないが、朝鑑賞が本質的な教育問題の改善に資するとするならば、「ウェルビーイングの向上」²⁶⁾に結び付けても良いだろう。次期教育振興基本計画に位置づけられたウェルビーイングは、自己肯定感の向上や、他者理解、多様性の実現など、朝鑑賞の活動理念と目標の一致が見られる。いずれにしても朝鑑賞は今日の教育課題を広く改善する取り組みになっていく。

教師のウェルビーイングに関しては先述のヒヤリングやアンケートから、ファシリテーション能力の向上が関係していると確認できる。このファシリ

テーション能力は教師の今日的な指導力として求められている能力であり、教師と子どもの人間関係を改善し、教師としての自己肯定感や仕事のやりがい、すなわちウェルビーイングにつながっていく。桜中学校の増田は朝鑑賞について「私自身が変わるきっかけをいただいた。最初は反感しかなかったが、やっていくうちに、子どもがどんどん変化していくことに気づき、子どもはこちらが想定している以上いろいろなことを感じている。そして、授業中、もしかしたらこれは朝鑑賞の効果かなと思うことが増えた。そこで子どもたちの発言を聞くようになり、教員主導ではなく子どもと一緒に作り上げていく時間を大事にするようになった。」と述べている²⁷⁾。同様の発言は三ヶ島中学校の初手航（はつてわたる）教諭も「当初は朝鑑賞が嫌いだった」と前置きし、今は「生徒と話していく中で、言葉を繋いで、生徒とコミュニケーション取りながら10分間終えられればいいんだなと考えたら結構楽しい。10分間で生徒との関係性を築く練習だと思ってやっている。話す練習としてこの10分間でどれだけ生徒の考を引き出せるか試練としてやっている。」と朝鑑賞に取り組む姿勢について語り、さらには授業も生徒主体に変わっていったことを話していた²⁸⁾。

教師力の向上は、教師と子どもとの関係を良好に保ち、教師としての幸福な時間を作り出す。このようなウェルビーイングについて次期教育振興基本計画では「子供たちのウェルビーイングを高めるためには、教師のウェルビーイングを確保することが必要であり、学校が教師のウェルビーイングを高める場となることが重要である。」とある。学校全体で朝鑑賞に取り組む意味が、教師のファシリテーション能力の向上を実現させ、子どもたちの感想にもあるように教師のみならず子どもたちの幸せをも実現させていく取り組みと考えるならば、学校で取り組む朝鑑賞はまさに学校の幸せをつくり出す活動と言える。

(3) 学力（資質・能力）に関する貢献

学力テストにおける得点の向上はこれまでに確認できているが、自ら考える力や、主体的に学ぶ意欲など非認知能力の向上も、生徒アンケートから確認することができる。拙論『朝鑑賞の取り組みと成果報告』でも報告済みであるが、他に他校の学年全生徒に対して任意で求めた生徒アンケート²⁹⁾から特

徹的なものを上げてみる。(回答率98%文章は原文のママ)

- 朝読書より面白く、想像力がつくのでとてもいいものだと思います。
- 朝鑑賞のお陰で視野が広がり想像力も広がりました。友達と話し合ったり認め合ったりできてよかったです。
- 今まであまり興味のなかった絵という分野にも朝鑑賞をしたことで興味などを持てるようになりました。
- 朝鑑賞をすることで今までそこまで深く考えなかったことなどにも深く考えれるようになったので良かったです。
- 自分がこうだろうと思っていても、友達が違う考えをしていたりしたので面白かった。
- 自分は絵に思う気持ちは他の人と何が違うのかなどを考えたり感じたりすることができてよかったです
- 一つの絵を様々な方向や観点から見ること、その絵が示していることや何を伝えたいのがよく理解できたと思う。
- 他の人の考えを聞いて、自分の考えが変化したり、納得した場面があったので、人それぞれ違う考え方で面白いなと思った。
- 友達と自分の意見の違いを比較しながら想像力や自分の意見を尊重する力が、出来ていいなと思いました。
- 自分から絵を見て、自分が感じたことをしたことが無かったので、朝鑑賞をして色々な事を考えることができたので、想像力が少し上がった感じがしました。
- 自分の考えが全てではなく見方と特徴の捉え方により自分の見方と違う考えや違う本質を見つけること、作者の考えが推測でさかぬ以上自分の想像力を友だちなどとの共有でどれだけ深められるかという時間が楽しかったです。美術に上下、上手い下手はあまりない感じで自分がただのなぐり描きのように見えた作品も視点...上下逆さにして別の本質を見つけた人がいてすごいと思いました。
- 絵の一つ一つの描写に意味があるだろうという推測をやり込む時間はとても楽しかったです。しかし朝鑑賞という時間だけ見ればひとりでブツブツ考え込む姿勢よりも、もっと先生や多くのクラスメイトと多様な立場から共有をするべきだとも思いました。
- 朝鑑賞は他の人と意見を交換したりしてその中から自分の考えを出すことが大切なんだと改めて思いました。
- 自分の思った事を、他の人に共有し合う事で、ここはこーゆうことなんだってという共感性を持つことが、できるんだな。と思いました。
- 絵が意味わからないものばかりで面白かった。

生徒のアンケートを読むかぎり鑑賞に対する意欲や鑑賞を通しての想像力や共感性の伸びについての記述が多く、朝鑑賞を肯定的に受け止めている生徒91.6% (無回答7%肯定とはいえない1.4%)。肯定的な意見の中で、自身の非認知能力の伸びについて記述のある生徒48%。また、「絵が意味わからないもの

のばかりで面白かった」という、分からないことを前向きに捉えている姿勢が読み取れる生徒もいる。

6. 課題と今後に向けて

朝鑑賞の取り組みについては更なる普及活動が必要であり、この活動の広がりを阻害している要因をさらに分析すると共にその原因の排除を考えて行く必要がある。

普及活動に関しては、現在、全国各地で朝鑑賞のシンポジウムを企画し、実践者の声を繋いで全国に広げていきたいと考えている。2025年2月23日には鳥取県立美術館で「朝鑑賞で安心安全な学校づくり」というテーマでシンポジウムを開催し参加者と共に朝鑑賞について考えて行く。パネラーは本論に登場した、沼田、青木、星野ほか5名、実践報告は鹿児島県奄美市立崎原小中学校長の鑑謙治ほか、現場の実践者6名を予定している。鳥取県立美術館が開館前の事業としてシンポジウムに取り組む意義は、美術館教育を1つの柱としている点や朝鑑賞資料の提供先として美術館を考えているからである。これまでも長野県東御市では、市立の美術館からの作品データを小中学校に提供している。このように地域の美術館が作品画像を提供することにより、学校と美術館との距離も近くなるであろう。2026年度には長野県東御市でシンポジウムの開催を計画している。引き続き行政と共に朝鑑賞の普及を進めていく予定である。

もう一点、普及に際して当初からの懸案であるファシリテーション能力の開発であるが、今まで作品鑑賞におけるファシリテーションのマニュアル化を排除してきた。それは鑑賞行為そのものが人間の自由な行為であるとともに、マニュアル化によって個別最適な鑑賞方法を阻害することがあるからだ。特にファシリテーションの能力は相手に対して柔軟に対応できるコミュニケーション能力が必要であり、法則化された対話はその柔軟性を欠いていく。ましてや教育現場においては多様な個性を持つ子供たちにとって、画一的な手法は個の感性とその成長を妨げかねない。しかしながら、ファシリテーションのマニュアルを求める教師は多い。そこで、熟達した多様なファシリテーションと、そうではないファシリテーションの相違を明らかにし、その視点から自発的に気づいていく教材の作成が求められる。これら2点を今後の研究としていきたい。

註

- 1) 三澤一実,『「朝鑑賞」の取り組みと成果報告』,日本美術教育連合,2017
- 2) 今日的教育課題としては主体的対話的で深い学びの実践,不登校対策,生成AIへの対応などがあげられる
- 3) 戸来忠雄,八戸市立白山台中学校校長
- 4) 花里裕子,目白研心館高校講師
- 5) 沼田芳行,所沢市立三ヶ島中学校校長(2015.4~2020.3),所沢市立向陽中学校校長(2020.4~2023.3)
- 6) 奥村高明(研究代表),東良雅人,宮本友弘,一条彰子,池内次郎ほか,「美術教育における学力分析~ループリックを用いた鑑賞学習の効果測定~」2017-2019基盤研究(C)課題番号17K04810
- 7) 旅するムサビ,武蔵野美術大学の学生と小中学校を訪問し対話鑑賞などを行う取り組み,2008年~現在,2017年にはグッドデザイン賞受賞,学生作品の鑑賞は子どもたちにとって年齢的に身近であり共感性が高いと考えられる
- 8) 2021年11月24日坂戸市立桜中学校で集録
- 9) 2021年11月12日武蔵野美術大学で集録
- 10) 2022年11月26日所沢市立向陽中学校で収録
- 11) 2022年11月2日川口市立鳩ヶ谷小学校で収録
- 12) 前掲5
- 13) 鑑賞ループリックから生徒感想,坂戸市立桜中学校2021.12)
- 14) 前掲9
- 15) 前掲10
- 16) 青木善治,『教師が「教えない人」になれる時間朝鑑賞』,東洋館出版,2024.ほか論文多数,滋賀大学教職大学院教授
- 17) 読売教育賞2017「カリキュラム・学校づくり」部門優秀賞「朝鑑賞で生徒の思考力・表現力を大きく伸ばす三ヶ島アートプロジェクト」
- 18) ジョン・マエダはSTEAMのAの働きに批評を上げている
- 19) 三澤一実,朝鑑賞実践編.<https://youtu.be/THPAoQePe4>,2023.ほか
- 20) 2018年2月2日,写真(図1)参照
- 21) 鳥取県議会,2022.12.16,<https://www.facebook.com/masaking3067/videos/908743560533744>
- 22) 埼玉県上尾市立西小学校の山田空教諭と茨城県ひたちなか市立津田小学校町田知美教諭の発言
- 23) 信濃毎日新聞,2024年7月30日朝刊
- 24) 鳥井夕子,羽村市立松林小学校校長,インタビュー。2024.10.30
- 25) 所沢市立安松中学校2年生へのアンケート朝鑑賞を2学期から第2学年で週1回実施,約5ヶ月で18回実施後にループリック調査,生徒自由記述欄から2023年3月実施
- 26) 「次期教育振興基本計画について(答申)」令和5年3月8日,中央教育審議会
- 27) 2023年度関東甲信越静地区造形教育研究大会埼玉大会第6分科会での発言,2023.11.17
- 28) 三ヶ島中学校H.30年度朝鑑賞研究発表会での発表から,2020.1.31
- 29) 前掲26